

箱根駅伝 区間エントリー

神大2区に越川起用

来月1月2、3日に行われる第95回東京箱根間往復大学駅伝に出場する23チームの区間エントリーが20日に決まり、総合5連覇と出雲が全日本選抜、全日本と合わせた1区に前回区間賞の西山和弥を置く。青学大3冠を目指す青学大は2区に梶谷瑠哉を起用した。前回の区間賞の森田歩希は左脚の不安で1区に前回の区間賞の西山和弥を置く。1区は竹石尚人、6区は小野田勇次、7区は林兼介と前回大会と同

次に、2区に越川が起用された。1区は出雲の西山和弥、2区は青学の越川、3区は東海の関颯人、4区は東洋大の森田歩希、5区は東洋大の森田歩希、6区は東洋大の森田歩希、7区は東洋大の森田歩希

神奈川大の越川は2区にエントリーされた
=10月の予選会

青学大 優位揺るがず 追う東海大、東洋大

史上3校目の総合5連覇を狙う青学大は選手層が厚く、優位は揺るがない。スピードが武器の東海大と3年連続2位の東洋大が追う。青学大は10月の出雲全日本選抜と11月の全日本両大会で区間賞の森田歩希を、エース級が集まる同区間に起用できないのは誤算だが、代わりに抜てきされた梶谷瑠哉も力があり、実力者がそろそろ復路でも勝負できる。補欠も含めて前回優勝の経験者が7人いることも強み。2016、17年に続く2度目の3冠を果たせば初の快挙となる。

全日本2位の東海大は主力の関颯人、館沢亨次らをレース当日に交代が可能な補欠に回して起用に幅を持たせた。往路で9位と出遅れた前回の失敗は繰り返さない。1区の鬼塚翔太や5区の西田壮志の奮闘が不可欠だ。出雲2位で前回往路優勝の東洋大は、今季不調の1区西山和弥が鍵を握る。補欠に山本修一、相沢晃らエース級も控えるが、往路重視で臨む方針で、リードを奪って復路に臨みたい。「3強」に続くのが駒大と帝京大。駒大は昨年のユニバーシアード夏季大会ハーフマラソン覇者の片西景を軸に予選会を圧倒的な強さで突破し、総合力が高い。帝京大は出雲、全日本でともに5位と、上位に食い込む力がある。